

ヤナギスブタの菌エイ

浜島 繁 隆

水草の菌エイについてはガガブタ(鈴木, 1981; 浜島, 2000), ホソバミズヒキモ(浜島, 1993)について報告がある。今回, ヤナギスブタの茎に菌エイがみられたので報告する。

2000年10月10日, 三重県明和町の休耕田で茎が異常に肥大したヤナギスブタを見つけた。茎の径は正常なものであれば, 約2mmであるが, これは4mm程に肥大していた。発生の部位は根元近くで, 大きさは9x4mmのイモ状に膨れていた。肥大した茎は白色で葉をつけていた。横断面を鏡検すると, 細胞内にフットボール様の網目模様の胞子を充満した細胞が多く見られ, これより菌エイであるが明らかになった。

文 献

鈴木達夫(1981)ガガブタのゴール。水草研究会報 6: 10.

浜島繁隆(1993)ホソバミズヒキモに発生した瘤。水草研究会報 51: 34.

浜島繁隆(2000)ガガブタの子房にできた瘤。水草研究会報 71: 21.



写真. ヤナギスブタの菌エイ

○滝田謙讓著『北海道植物図譜』

1987年に, 「北海道の植物」を書いた著者に, 全国の植物研究者から同じように精密なスケッチで, 北海道植物図譜の発行の要望が多く寄せられていた。

この図譜は北海道を自分の足と目で調査・採集した標本を元に, 似た種の区別が分かりやすいように12年をかけて, 線画で描いた図譜で, 北海道に自生する植物, 水草を含めて, 約2000の種・亜種・変種・品種が収められている。

B5判, 本文1,425ページ, 総ページ数1,452.

日本の既刊の図鑑や植物誌に記載のない種や名前だけの種も, 図解と解説をしている。

定価は13,500円, 水草研究会会員の皆様には,

送料を含めて13,000円で頒布致します。

申込先: 〒085-0806 釧路市武佐2-34-21・Tel. Fax. 0154-46-3490, 滝田謙讓, 郵便振替口座 02710-6-4331 (滝田 謙讓)

○世羅台地の自然編集委員会(編)『世羅台地の自然』(世羅台地の自然発刊連絡会, 2001年3月, A4版 3分冊計500頁, 頒価6,000円)

広島県の地図を開くと中央部よりやや東よりに世羅町, 世羅西町, 甲山町の3町からなる世羅郡の名が見あたる。標高300~500mの台地状の地形に位置する地域で, 高校駅伝の名門世羅高校をご存じでなければ, 県外の方にはまったくなじみのない地名であろう。しかし, 近年, この地域に隔

離分布する植物が相次いで発見されるなど、植物地理学的にも興味深い地域として注目されていた。今まで、世羅台地の自然に関する資料はけっして十分とは言えなかったが、地元3町の協力で詳細な調査が進み、その成果の集大成がこの立派な自然誌として出版された。「生物編」,「地学編・自然観察編」,「生物編・目録」の3分冊が箱入りで1セットである。オールカラー印刷であることや部数限定であることを考えると、価格は驚くほど安い。

「生物編」の中の植物の部は、環境ごとに内容が構成されている。本会の会員に特に興味深いのは「湿原の植物」と「ため池の植物」であろう。植物相の特色の概説の後、主な湿原やため池について紹介されている。記述がたいへん具体的であるために、保全の観点からは危惧される点もあるが、後世のための記録性を重視したということであろうか。これが保全のための基礎資料として活用されることを期待したい。

入手希望者は、〒722-1111広島県世羅郡世羅町大字寺町1158-3 世羅町教育委員会内 世羅台地の自然編集委員会事務局 (TEL 08472-2-4411) まで照会されたい。(角野康郎)

○徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会編著『徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—』(徳島県環境生活部環境政策課発行, 2001年3月, A4版 438p)

維管束植物では準絶滅危惧種を含めて708種が選定された。水草の掲載種を拾いながら、このリストに載っていない種類は何が残るのだろうかと考えてしまうほど、水湿地の植物が多い。動物の各分類群も含めたRDBなので、植物の個々の種に関する記述は簡潔であるが、分布情報(過去の記録含む)が市町村レベルまで具体的に記述されているなど、今後の調査の基礎になる内容は備えている。

水草(狭義)の掲載種は以下の通り。

絶滅：ヒシモドキ, サジオモダカ, マルバオモダカ, ツツイトモ, ヒロハノエビモ, カワツルモ

絶滅危惧Ⅰ類：ミズニラ, ミズニラモドキ, デンジソウ, サンショウモ, アカウキクサ, オオアカウキクサ, ジュンサイ, オニバス, オグラコウホネ, ヒメコウホネ, ヒツジグサ, ヒメビシ, オニビシ, オグラノフサモ, タチモ, フサモ, ヒメシロアサザ, ガガブタ, アサザ, ノタヌキモ, イヌタヌキモ, アギナシ, マルミスブタ, スブタ, ウミヒルモ, コバノヒルムシロ, オオミズヒキモ, リュウノヒゲモ, イトモ, イトクズモ, ムサシモ, サガミトリゲモ, イトトリゲモ, トリゲモ, ミズアオイ, ウキシバ, ヤマトミクリ, ヒメミクリ, コガマ, チシママツバイ, イヌクログワイ, ヒメカンガレイ, シズイ, スジヌマハリイ

絶滅危惧Ⅱ類：クロモ, ミズオオバコ, イバラモ, ミクリ, イセウキヤガラ, アンペライ
準絶滅危惧種：ミズワラビ, ナガエミクリ, エゾハリイ

○『保護上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—』(和歌山県環境生活部環境生活総務課編集・発行, 2001年3月, A4版 428p)

動植物から植物群落, 地形・地質まで含んだRDBである。植物は527種が選定されているが、これらの種の生育環境や県内の分布情報等は表形式で整理され、そのうちの主な種についてだけ解説があるという体裁になっている。

水草の掲載種は以下のとおり。

絶滅：フサタヌキモ

絶滅危惧ⅠA類：デンジソウ, カワツルモ, オニバス, オグラコウホネ

絶滅危惧ⅠB類：サンショウモ, アカウキクサ, オオアカウキクサ, アギナシ, ウミヒルモ, コバノヒルムシロ, リュウノヒゲモ, コアマモ, オオミクリ, ヤマトミクリ, ヒメミクリ,

ミスミイ, ヒメカンガレイ, シズイ, イセウ
キヤガラ, ヒメシロアサザ, アサザ, イトタ
ヌキモ

絶滅危惧Ⅱ類: ミズニラ, ミズワラビ, マルミ
スブタ, スブタ, ヤナギスブタ, トチカガミ,
イトトリゲモ, ウキシバ, シログワイ, ヒメ
ビシ, オニビシ, ガガブタ, ノタヌキモ

準絶滅危惧種: ミズオオバコ, セキショウモ,
ササバモ, イトモ, トリゲモ, ナガエミクリ,
アンペライ, コウホネ, ヒメコウホネ, ヒツ
ジグサ, タチモ

情報不足: ヒロハトリゲモ, ミズアオイ

○『レッドデータブックにいがた』(新潟県環境
生活部環境企画課編集・発行, 2001年3月, A4
版 467p.)

667種の維管束植物が選定されている。これら
のうちの2割以上が水湿地の植物であるという。
以下に水草の掲載種をまとめておくが, 豊かな自然
が残っていると思われる新潟県でクロモやマツ
モまでRDBに挙がる現実, いささかショック
である。日本の水辺環境の深刻さもいよいよここ
まで来たかという思いが強い。

絶滅: ムジナモ

野生絶滅: デンジソウ,

絶滅危惧Ⅰ類: ヒメミズニラ, ミズニラ, シナ
ミズニラ, オオアカウキクサ, ヒシモドキ,
フサタヌキモ, マルバオモダカ, マルミスブ
タ, エゾヤナギモ, コバノヒルムシロ, エゾ
ヒルムシロ, オオミズヒキモ(カモガワモ),
ササバモ, ツツイトモ, ネジリカワツルモ,
カワツルモ, イトトリゲモ, トリゲモ, ヒメ
イバラモ, ウキミクリ

絶滅危惧Ⅱ類: ミズドクサ, サンショウモ, バ
イカモ, ジュンサイ, オニバス, ヒツジグサ,
マツモ, ヒメビシ, オグラノフサモ, ホザキ
ノフサモ, タチモ, ミツガシワ, ガガブタ,
アサザ, ノタヌキモ, ヒメタヌキモ, イヌタ

ヌキモ, タヌキモ, スブタ, ヤナギスブタ,
クロモ, トチカガミ, コウガイモ, セキショ
ウモ, イトモ, センニンモ, オヒルムシロ,
ヒロハノエビモ, イバラモ, ミズアオイ, エ
ゾミクリ, ヤマトミクリ, タマミクリ, ヒメ
ミクリ, スジヌマハリイ, ヒメホタルイ, エ
ゾウキヤガラ(コウキヤガラ)

準絶滅危惧: ミズワラビ, アギナシ, ミズオオ
バコ, フトヒルムシロ, アマモ, ウキシバ,
ミクリ, ナガエミクリ

○『愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッ
ドデータブックあいち—植物編2001—』(愛知県
環境部自然環境課発行, 2001年9月, A4版714p.)

維管束植物とコケ植物を対象としたRDBであ
る。維管束植物では561種がリストされた。評価
の基準や植物相とその現状に関する概説は簡潔な
ものだが, 種の解説には1種1頁をとり, 選定理
由, 形態, 分布の概要, 保全上の留意点等が詳し
い。そのほとんどを芹沢俊介氏(愛知教育大学)
がおひとりで執筆されたと聞くが, それだけに十
分に精査された情報がふんだんに盛り込まれてお
り, 将来にわたって価値ある記録となっている。

末尾に「レッドデータブックあいち植物編に関
するQ&A」というページがあり, 環境庁版
RDBとの評価の食い違いや, 標本のない「絶滅
種」を含めなかった事情などについて解答してい
るのは面白い。

水草の掲載種は以下の通り。なお湿地の多い地
域だけに, 湿生植物も多数リストアップされてい
る。

絶滅: ミズスギナ, ミツガシワ, ヒシモド
キ, フサタヌキモ, ウミヒルモ, センニンモ,
ミスミイ

絶滅危惧ⅠA類: オニバス, オグラコウホネ,
アサザ, マルミスブタ, ムサシモ, ヒメミク
リ

絶滅危惧ⅠB類: アカウキクサ, コウホネ, ヒ

メビシ、ヒメシロアサザ、ミカワタヌキモ、
コタヌキモ、ヒメタヌキモ、マルバオモダカ、
セトヤナギスブタ、コウガイモ、オヒルムシ
ロ、イバラモ、ミズアオイ、ウキガヤ、ミク
リ

絶滅危惧Ⅱ類：デンジソウ、サンショウモ、オ
オアカウキクサ、ヒメコウホネ、オグラノフ
サモ、スブタ、ササバモ、イトモ、サガミト
リゲモ、オオトリゲモ、シズイ

準絶滅危惧：ミズニラ、マツモ、オニビシ、タ
チモ、ガガブタ、トチカガミ、セキシヨウモ、
エビアマモ、コアマモ、リュウノヒゲモ、カ
ワツルモ、ウキシバ、ヤマトミクリ

(角野康郎)

○川道美枝子・岩槻邦男・堂本暁子(編)『移入・
外来・侵入種—生物多様性を脅かすもの』(築地
書館, 2001年12月, 四六判, 333頁, 2,800円+税)

移入種の問題は、動物、植物を問わず生物多様
性保全の観点から深刻な問題であるという認識が
ようやく広がり始めた。本書は15章からなり、さ
まざまな生物群における移入種の現状とどのよう
な問題を引き起こしているかを紹介している。さ
らに世界自然保護連合(IUCN)による取り組み
や移入種に対する法規制や検疫体制の話まで、
幅広い内容が取り扱われている。水草に関しては
「侵入する水生植物」として、最近の急増する外
来種の実態とその背景が報告されている。行政レ
ベルでも取り組みが始まろうとしている移入種問
題の今を知るために、たいへん参考になる。

(角野康郎)

○上赤博文著『ちょっと待ってケナフ! これ
いいのビオトープ?』(地人書館, 2001年11月, A
5版 183頁, 1,800円+税)

「環境にやさしい植物」として広まっているケ
ナフがほんとうに環境にやさしいのか?という疑
問を軸に、良かれと思って行われている行為が日

本の自然を破壊している(あるいはその可能性が
ある)現実について平易な言葉で問題提起してい
る。公共事業や市民の取り組みの中でもしばしば
行われている植栽やホタル、メダカ、コイの放流
が何故問題か? ちまたで行われている「ビオト
ープ」づくりは「自然復元」と言えるのだろうか?

善意で行われるこのような取り組みの問題点を、
生物多様性の保全をキーワードに整理している。
タイトルでは半分を占める「ビオトープ」に関す
る部分が少ないのが物足りないが、基本的な姿勢
は打ち出されているので、続編を期待することに
しよう。本書はケナフや「ビオトープ」を進める
学校の先生方や一般の方にこそ読んでいただきたい
本である。

(角野康郎)

○水草関連文献リスト

<2001 — (1)>

浅野紘臣, 2001. アイガモ農法連用水田における
雑草の発生数の変化. 雑草研究 46: 13
-18.

浅野紘臣・磯部勝孝・兼平勉, 2001. アイガモ農
法水田の継続期間と草種別発生数の変化—
熊本県矢部町の事例—. 雑草研究 46:
19-24.

浅野紘臣, 2001. 水田雑草の発生に及ぼす遮光の
影響. 雑草研究 46: 31-36.

浅見佳世・中尾昌弘・赤松弘治・田村和也, 2001.
水生生物の保全を目的とした放棄水田の
植生管理手法に関する事例研究. ランド
スケープ研究 64: 571-576.

稲村達也・山本卓司・吉田弘・杉山高世・西尾和
明, 2001. クログワイの塊茎形成期にお
ける遮光処理の強度と塊茎生産量. 雑草
研究 46: 201-210.

植松 茂, 2001. 大都市札幌市におけるタヌキモ
の大群落地新発見. 食虫植物研究会誌
52: 81-82.

小原 洋・内野 彰・渡邊寛明, 2001. スルホニ